令和７年度第４回裾野市総合計画審議会

１日時　令和７年 11 月 18 日（火）14 時 25 分～15 時 55 分

２会場　裾野市役所４階 402 会議室

３出席委員（敬称略）
　藤井敬宏（日本大学理工学部特任教授）
　山本睦（常葉大学保育学部教授）
　橋本勝彦（裾野市区長連合会連合会長）
　渡邊昌志（裾野市商工会副会長）
　杉山千惠（裾野市社会福祉協議会会長）
　市川加代子（裾野市環境審議会委員）
　飯塚尚司（トヨタ自動車株式会社東富士研究所管理部総括室室長）
　吉田俊朗（矢崎総業株式会社・総務人事室総務部）
　欠席：久保田委員、市川委員

４次第
（１）開会
（２）会長挨拶
（３）議事
①第５次総合計画後期基本計画案について
・第３回裾野市総合計画計審議会意見対応表・・・・・・・・・・・・・・資料１
・第５次裾野市総合計画後期基本計画案・・・・・・・・・・・・・・・・資料２
・パブリックコメント対応案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料３
・答申案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料４
・スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料５
・第５次裾野市総合計画後期基本計画策定方針・・・・・・・・・・・参考資料１
・第５次裾野市総合計画後期基本計画骨子(案)・・・・・・・・・・・参考資料２
②答申案について
（４）その他

５　会議記録（要旨）
（３）議事　※司会：橋本会長
①第５次総合計画後期基本計画改定案について
②答申案について

- **事務局説明**

〇会長

- 議事についての説明が終了したため、委員の皆様からのご意見、質問等を求める。

〇藤井委員

- 後期基本計画案は、個別計画の中で丁寧に修正されており、計画案自体に特に申し上げることはない。
- 答申案の５つの項目について、順番が綺麗である一方、市が問題点として捉えていることが、スタンダードすぎる印象。
- 直近の問題として最も懸念しているのは３番（若者世代の定着支援）であり、高校の再編計画などとも関連し、将来の人口動態を見た時に最優先で考えるべき要素である。
- ３番を１番目にして、市としての具体的な問題意識を後期基本計画の中で明確に示すとともに、次の計画策定時には具体的な施策アプローチに展開してほしい。
- バックキャスト型（長期的な視点）の項目は逆に後ろに置いても良い。項目の入れ替えを工夫することで、裾野市としての強い思いが出ると感じた。

〇山本委員

- 市役所の努力は評価するが、国だけでなく、間にいる県との関わりをどうするかを深めたい。
- 答申の書き方が一般論的で、「今何が困っているのか」（人不足とお金不足）という視点を明確に書き、裾野市がどのように成長発展を考えているかを伝わるようにすべきである。
- 総合計画はやらなくても良いはずなのにやり続けているため、もう少し具体的な問題として、なぜこだわっているのかを見せたい。

〇杉山委員

- 一般市民にとって、藤井委員が言うように若者世代の定着支援を最初に持ってくるのは、今住んでいる人たちが関心のある子どもがどのように育っていくのかということとあってくる。

- 裾野市は国や県に依存せず、自主自立の精神を持ち、地域にお金を生むことを具体的に考える必要がある。
- 企業誘致をするのであれば、社宅も建てて家族が住み、子どもが増えるように配慮すべきである。

〇吉田委員

- 答申案 4 番の「評価基準や見直し」について、「見直し」が何の見直しなのか見えにくいため、「基準や施策の見直しの方針を」という形で言葉を加えてもらうと、より伝わりやすくなる。

〇市川委員

- 藤井委員の「3 番を一番に上げたらどうか」という提案に賛成する。何がポイントかを明確にしたい。
- パブリックコメントの質問への回答は、丁寧に答える必要がある。
- 総合計画だったとしても、何が分かるかということを強く書いていただいた方が市民には分かりやすい。

〇事務局

- 委員からのご指摘は、「なぜ計画をやるのか」「直面する課題は何か」「独自に何をやっていくのか」といった点が大きく打ち出せていない点にあると感じた。
- 事務局の見直しの中で、大きく進められるポイントは、大綱 1 の子育て支援と若者世代の教育、大綱 2 の若者に生き抜く力を得てもらうための人材育成、そして大綱 4 の都市構造の見直しであると再認識した。
- 都市構造の見直しは、高校の再編、小中学校の再編、公共交通の整備など、若者の暮らしやすさにつながる分野横断的な部分とも連携している。
- 分野横断的視点をキーワードとし、大綱 1 と大綱 4、分野横断的視点を強く打ち出すべきという問題意識を持っている。
- 答申の 3 番（若者世代の定着支援）を一番にすることで、市が重点的に取り組むべきところを明確にし、市民の皆さんに伝えられるようにしたい。

〇渡邊委員

- 総合計画は、具体的なところが見えにくいといえる。

- 人口減少対策として「人と企業に選ばれまち」というテーマを掲げ、定住人口や交流人口などを出そうとしているような、裾野市独自のことが実施の中でもっと出てくるとありがたい。
- 商工会として、市には人口減少に抗うことをやってほしい。
- 裾野市独自の事業をやって、市民や商工会が覚悟を持って臨めるような計画にしてほしい。

〇藤井委員

- 事務局が説明した、各部局が重要視しているポイントを少し組み込むだけでも随分印象が変わる。
- 「特色ある施策展開」といった項目には、「新たな産業」や「新たな都市構造の構築」といった裾野市の具体的なメニューを組み込んだ方が良い。
- 「情報発信」（シティプロモーション）についても、裾野ならではの特色を発信する上で大事なので加えた方が良い。
- 5 番の「戦略的に取り組むべき横断的な視点」は、どういうテーマか（例：新たな都市構造の構築）を噛み砕いて書いてあった方が、裾野市らしさがより見えてくる。
- キーワードの組み換えをするだけで印象は随分変わると思う。

〇飯塚委員

- 具体的なキーワードは括弧書きで入れた方が良い。
- 答申案は道しるべであるため、具体的な施策は次の実施計画に入れるべきで、キーワード的なもので留めるのが良い。
- 順番を変えると見方が変わり、市民にも伝わりやすくなると思う。
- 自治体名を変えても使えるという点は日本の構造的な問題だが、その中で「シティプロモーション」や「都市構造の再構築」といった裾野市の強みが入っていると良いと思う。

〇市川委員

- 答申案の 3 番に具体例が括弧で入ったように、他の項目も書けるところだけ具体例を括弧で書けば、市民が「自分の考えを入れてもらっているな」と思えるのではないか。

○山本委員

- 「高校の再編」は県の仕事であるため、市が主体となってやる「幼保小連携」を書いた方が良い。
- 「分野横断的」という言葉は、縦割り行政をせず、各関係課が複合的に対処するという意味ならば、「各部署」や「各部署が抱えている専門家」といった表現の方が適切ではないか。

○飯塚委員

- 「都市構造の再構築」も県が関わるため、高校再編について言及することもありと考える。
- 市が積極的に動いている姿勢を見せることが重要であり、挑戦的な記述があるといいと思う。

○藤井委員

- 文章に「見据える」とあることから、その前に社会的な急激な変化（例として高校の再編）が来ることが適切であり、市がこの変化にどう対応するかという姿勢を教育の場面で見せるべきなので、高校という言葉は落として欲しくない。

○飯塚委員

- 「若者世代の定着支援を一番にすべき」という社会情勢の急激な変化を見据えるという点において、高校は 1 校と 0 校の差が大きいため、インパクトがある。

○杉山委員

- 公立だけでなく、特化した私立学校を呼び込むなどということも良いと思う。若者が何に興味があるか、何を学びたいかに焦点を当てるべき。
- 裾野市が挑戦していくという形にするのは、飯塚委員の意見も含め良いと思う。
- 「市としての」と入れることで、受け入れ側の幅広さが出る。

○飯塚委員

- 「高校」はあくまで急激な変化の例であり、高校自体に一言も触れていない。
- 「高校再編」は議論のきっかけであり、実際に地に足つけてやるのは都市構造の再構築や商工業の振興である。

〇市川委員

- 裾野高校は過去に地元の人々が協力して残してきた歴史があり、高校を大事にする想いがある。

〇飯塚委員

- 現実は山本委員の言う通りだが、変化の議論を通じて、最終的には都市構造をどうするか、戦略的に考える必要がある。
- 高校再編を変化の一つとして挙げることで、「待ったなしで早く構造変更から始めましょう」というメッセージになる。

〇山本委員

- 高校はクラスが半減し、選択制になるなど、できることはやっているが、裾野は「通り過ぎる街」であるのは高校生にとっても変わらない。
- 教育者としては、中等・高等教育より、義務教育（小中の統合・再編）の問題の方が大きいと思う。義務教育は国民の義務だが、中等・高等教育は個人の選択肢になっていく。

〇飯塚委員

- 都市構造の再構築をどうするのか。高校の位置を変えることで優秀な学生を呼び込める可能性もある。
- 都市構造の再構築が何よりも最初であると思う。
- 答申案は、事務局が修正している幼保、小中、高校の全てが入っている形なので、これで一旦合意できるのではないか。

〇橋本会長

- 答申案について、委員の合意を求めた（異議なし）。